

■ 業績全般について

Q1. 今四半期の業績は計画対比ではどうだったか。収入・費用に分解して教えてほしい。

A1. EBITは対計画比で約200億円上振れた。ほぼ収入の上振れであり、内訳は国際旅客+200億円、国内旅客△100億円、貨物+100億円。費用については、燃油費が計画を数十億円上回ったものの、他費用がほぼ同額下回っており、ほぼ計画通りとなった。

■ 旅客需要について

Q2. 国際線・国内線それぞれ、客体別に旅客回復の状況を教えてほしい。

A2. 国際線は、本格的な回復には程遠いが、日本発の企業の出張需要の回復が顕著だった。アジア＝北米間の通過需要は堅調。他にもVFR、帰国、技能実習生の需要も回復傾向だった。

国内線は、着実に回復基調にあるが個人需要の戻りに比べて団体需要が遅れている。また、地方発東京・大阪方面行の需要回復に遅れがみられている。

■ イールド・単価について

Q3. 前年同期比で国内旅客・国際旅客のイールド・単価の動向はどうだったか。

A3. 国内線は、レジャー需要の回復により需要構成比ではマイナスとなるどころ、運賃値上げや新機材であるA350の幹線への就航による競争力強化、適切なレベニューマネジメントの結果、イールド・単価を上げることが出来た。

国際線は、円安、燃油サーチャージ増の影響で、イールド・単価は前年同期比で大幅なプラスとなったが、これらの要素を除いた純単価では、需要構成等により前年同期比でマイナスとなった。

■ 新型コロナ第7波の影響について

Q4. 国内旅客の需要が当初想定よりも下振れているが、感染再拡大の第7波の影響で下振れ幅は大きくなっているか。

A4. 現時点では大幅な予約キャンセルは出ていないが、予約の伸びは鈍化しており、感染状況の動向を注視する必要がある。感染状況が落ち着けば、需要は急速に回復するものと期待している。

Q5. 欧米の航空会社のような需要回復期における人手不足による供給への影響はないか。また、直近の感染拡大による運航への影響はないか。

A5. 欧米と異なり、当社はコロナ禍においても雇用の確保に努めてきており、需要回復に応じて適時適切に供給を増やすことができる体制にある。なお、感染拡大第7波による運航への影響もないため、安心していただきたい。

■ 費用について

Q6. 実質固定費は計画対比でどうだったか。

A6. 今四半期の実質固定費は1,207億円と計画比△20億円であった。供給増の局面においてもコスト効率化の不断の努力を継続しており、通年で5000億円以内に収めるべくしっかりとコントロールできている。

以上